

昭和四十八年三月二十二～二十四日

九条家旧蔵本 展示目録

— 文書・縁起ほか —

宮内庁書陵部

廳宣 留字所
可令免除田原店所課呈報侵事
右件貢獲侵宜令免除之
狀所宣如件留字所報知依
件行之以宣
應保三年五月
左果金中堂大藤綱

一 九条家重書目録 建長八・八・廿五 權少僧都信遍筆 一卷

(奥書)

右目録、惣算顯三宝為証、別任聖靈」之知見、一紙半帋無紆謀之企、一事」一文不存僞偽、謹注進如件

建長八年八月廿五日

(以下九条忠教筆)

權少僧都信遍上

此目録、故殿御時、信遍書進之、永仁」二年十月十六日取出件皮子、合目録之處、無相違者也、同十八日返納了

二 九条家文庫文書目録 正応六 九条忠教・忠嗣筆 一卷

(袖書)

二位中将忠嗣卿、報恩院弟御筆跡也、」於奥目六者報恩院禪定殿下」被加筆了

永正丙子十月廿一日

(十三)

(忠教
九条尚經
花押)

三 官宣旨 天福二・六・廿五 和泉国日根莊立莊事 原本 一卷

四 源盛長以下代々讓狀類 寛元二・一・廿永廿 和泉国日根莊等 原本 五通

1 源盛長讓狀 寛元二・二・廿三 一通

2 源兼定讓狀 文保三・十一・廿二 一通

3 左大臣九条道教家御教書 曆応三・正・十八 一通

4 源英長讓狀 貞治五・六・廿

5 沙弥元章讓狀 応永廿・六・廿

五 和泉国日根野村荒野実檢打渡注文 延慶三

原本

四通

1 日根野村荒野実檢注文

一通

(端裏書)

日根野村荒野実檢注文

2 日根莊荒野打渡注文

一通

(端裏書)

日根庄内荒野重打渡注文

3 日根莊荒野打渡殘注文

一通

(端裏書)

実專注進 日根庄内荒野事

4 日根莊荒野相分注文

一通

(端裏書)

日野庄内荒野相分注文 実專注進 延慶三

六 和泉国日根野・入山田両村年貢散用狀 永享四・十 原本

一通

(端裏書)

草賀中務丞散用狀

七 摂津国輪田莊々官並記録所官人問注状建仁二・十四 原本 一通

(端裏書)

輪田御庄官申状

八 播磨国蔭山莊公文藤原義夏請文 嘉暦三・七・廿 原本 一通

(端裏書)

如覚子息義夏請文 仁色村公文職事 嘉暦三・七・廿

九 播磨国蔭山莊多田・山田村名主等申状案明応四・十二・六

室町期写 一通

一〇 播磨国司庁宣応保三・正 原本 一通

田原莊貢蘇役免除事

二 播磨国田原莊段錢田数注文 永享三・十一・十五 原本 一通

(端裏書)

田原庄田数段錢事

三 播磨国田原莊在清請文 永正十二・十・十 原本 一通

(端裏書)

在清請文 田原段錢事

三 後白河院庁下文建久三・二 原本 一卷

播磨国安田莊不輪事

三

(端裏書)

□すたの丁の御下文 安田庄序下文

一四 播磨国安田莊曾我部郷本所方年貢等注進狀・応永卅四・四・三

原本

一卷

(端裏書)

曾我部郷目録

一五 源季兼寄進狀康治二・十・四
能登国若山莊

原本

一通

一六 三宝院賢俊書狀 貞和五・二・十八

原本

一通

(端裏書)

賢俊僧正 若山莊間事 貞和五・二・十八

一七 九条政基山城國小塩莊下向引付永正二・十・十三—十九

原本

一通

一八 山城国東九条領檢注坪付帳案仁平三・十二・廿六 鎌倉末期写

一卷

一九 山城国紀伊郡里々坪付帳 鎌倉末—南北朝期写

一卷

二〇 左京七条二坊屋地手繼券文永久三—承安三

原本

四通

1 源義盛嫡女屋地売券 承安三・六・二

一通

2 藤原盛重屋地讓狀 天承元・八

一通

3 平資基屋地去渡狀 大治三・六

一通

4 平資孝文書紛失狀 永久三・四・廿六

三 尼觀明文書紛失狀 曆応三・六 原本 一通

三 不斷光院領目錄 応永廿五・十二・廿三 原本 一卷

(端裏書)
不斷光院領目錄

三 九条御領辺図 伝九条尚経筆 一枚

三 春日社権神主成家並氏人泰宣間事 曆応頃写 一卷 九 五

(諸道勘文第三卷の裏文書)

三 大間成文抄 九条教実写 一六卷

(第二卷與書)

以京極殿御自筆本、手自書写

嘉祿三年六月廿八日 右大臣 (九条教実写)
(花押)

右大間成文抄、洞院撰政殿令書「写給之旨、被加御書畢、可秘」藏者也
寛永廿年九月一日加一見了 左大臣 (九条教実写)
(花押)

三 優壇王所造梅檀积迦瑞像歴記 鎌倉期写 一卷 九 三

1 梅檀积迦文像略讚 後周 顯徳五年 僧徒南記

2 優壇王所造梅檀积迦瑞像歴記 後唐 長興三年 僧十明記

〔識語〕

雍熙二載乙酉二月十八日、於梁苑城左街明聖^{右殿}「觀音禪院、借得開宝寺永安院本寫取、日本国」東大寺渡海巡礼五台山僧盛算記

先師法橋上人為果宿念、本朝永觀元年八月一日、駕具越国商客陳仁爽・除仁滿等船渡海、當「太宗太平興國八年着彼朝岸、（中略）」

彼朝雍熙三年載台州客鄭仁德」船、奉迎請像耳、本朝永延元年云々

3 西郊清涼寺瑞像流記 弘安四年 僧顯意記

二七 渡宋記 永保二・九・五 僧戒覺記 寬喜元年 一卷 九 五
同三・六・十五（抄） 僧實尊寫

〔奥書並識語〕

寬喜元年^{乙丑}十月十六日、播州飾西郡於実報寺、以「戒覺聖人御自書寫了 執筆実尊

（以下 慶政自筆）

予下向播州之時、於書寫山対面実報寺主仏如房之時、「令書寫之、彼院主以弟子使写之了、院主語云、并石者」故平刑部卿忠盛拜見之時被取了、仍不知其趣方耳、「金剛窟者被埋引接寺仏壇下之由云々、清涼山茸在」同寺之由覺悟矣、但彼寺今者為廃寺故不能左右也、「仍此書安置當寺、々々当初戒覺上人所住寺也、上人厭喧」窃卜閑地、名引接寺、去此五町許也云々、此仏如房者」寂光寺・実報寺・引接寺三ヶ寺院主也、砂門慶政」為恐廃忘記之

二六 漂到流球国記 寛元元・九・八 寛元二年 自筆 一卷 九 三
同二・六・一 僧慶政聞書

（文末）

于時寛元二年九月廿八日、夜」於燈下、依船頭并一兩同法説、粗以記之、」
用図形脉遙送後輩、」猶如炭上図繪日輪

元 楞嚴院廿五三昧結衆過去帳長和二年序
祥連、覚超 僧慶政寛喜二年
政亨 一冊 九 三

(與書並識語)

寛喜二年秋八月十日夜、書写之了、近日毎夜」染筆、或以後夜鐘為限、隨分至志
押眠無何、哀傷甚多、仍故以書之、抑此記作者可尋之矣、或云、源信僧都述云々、
源信逝去之後、覚超僧都」書統之、覚超他界之後無人于統之云々、相似砂門」慶
政敬以記之

(以下九条兼季筆)

此記虫弘之次銘者乎、于時慶長」第十一丙午季春下旬」前准三宮入道沙弥円性

三 日王苑寺十二箇条起請 文治二年写 一卷 九 三

(卷末)

文治二年八月十七日書了

三 千觀内供八ヶ条起請 僧慶政写 一卷 九 二

合綴 恵心僧都四十一ヶ条起請

三 法華山寺縁起(首欠)
(草稿) 嘉祿三年 僧慶政筆 一卷 九 三

(奥書)

丁亥歲八月十一日、砂門福聚金剛

三 中宮寺緣起 尼信如起請事

鎌倉期写 一卷 九七

三 当麻寺流記

鎌倉期写 一卷 九三

(本奥書並慶政識語)

本云「本云、寛喜三十一十書写之

(以下慶政自筆)

宰相中将入道以自筆被書送之、彼狀云、於御草」庵可被清書者云々 隱士慶政記之判

(以下略)

三 振鈴寺緣起

寛元四年 僧慶政筆 一卷 九三

(文末並九条兼孝識語)

歳次丙午正月八日、粗以記之

(一行分抹消)

(以下兼孝筆)

右一卷者証月上人真跡也、可謂至宝者乎、「昔慶長第八曆仲春下四日、関白銘之

三 因幡堂旧事緣起

南北朝期写 一卷 九三

三 雜濫

明応頃 九条政基写 一卷 九二

1 藤森神社造立沙門樂翁勸進狀 明応五・二

2 京中巡礼次第 観音三十三所

(奥書)

明応七年二月 日、以性祐法師筆跡之 本写之

3 三十三所巡礼縁起之文

4 求常氣冬至術

三 九条政基詠五十首和歌草稿

甘露寺親長点
原本

一卷

九 四

(御即位部類記裏文書)

三 統百首 文永三年三月尽他一ヶ度

九条行家点
原本

一卷

九 四

(蓮華王院供養部類記裏文書)

四 和漢朗詠集断簡幅 首夏一納涼

伝九条道家筆

一幅

九 一〇三

四 藤原忠通消息幅 大臣宛
十因一帖

藤原忠通自筆

一幅

九 一〇一

